

JELA NEWS

ジェラ ニュース 第41号 2016年12月15日発行 発行責任者 森川 博己

一般社団法人日本福音ルーテル社団 〒150-0013 東京都渋谷区恵比寿1-20-26 Tel.03-3447-1521 Fax.03-3447-1523 jela@jela.or.jp www.jela.or.jp

難民支援／世界の子ども支援／ボランティア派遣／リラ・プレカリア(祈りのたて琴)研修講座／奨学金制度／宣教師支援

私たちは、キリストの愛をもって、日本と世界の助けを必要とする人びとに仕えます

お前たちは、わたしが飢えていたときに食べさせ、のどが渇いていたときに飲ませ、旅をしていたときに宿を貸し、裸のときに着せ、病気のときに見舞い、牢にいたときに訪ねてくれたからだ。はっきり言うておく。わたしの兄弟であるこの最も小さい者の一人にしたのは、わたしにしてくれたことなのである。 マタイによる福音書25章35～36、40節



今夏もアメリカ・グループワーク・キャンプに9名を派遣

アメリカのグループ・ワークキャンプに、今年も日本から青少年を派遣しました。十代の若者9名とスタッフ2名が米国の青少年といっしょに家屋修繕ボランティアを行いました。詳しくは2ページ以下をご覧ください。

【この号にはこんな記事が】

グループ・ワークキャンプ参加者報告 …… 2～3 リラ・プレカリア(祈りのたて琴):桜町聖ヨハネホーム30周年祝会に招かれて(中川愛弓)、祈りが湧き出てくる体験(中島望)／宣教師支援:新しい短期宣教師の紹介 …… 4～5 難民支援:ドイツの実践から2(有馬みき) …… 6 世界の子ども支援:キッズケアパークふくしま(栗原清一郎)／第8回川柳ひろば入選作発表 …… 7 2017年米国ワークキャンプ参加者募集／支援者一覧／教文館グッズフェアのお知らせ …… 8



＜キャンプの沿革＞

1977 年、米国コロラド州を襲った大洪水の被災者を支援するために、米国のキリスト教青年書専門出版社「グループ」がボランティアを募り、全米から集まった 300 人により始まったキャンプ。貧困地区の家屋修繕と賛美集会を組み合わせたこの催しは、現在は全米・カナダ及びその周辺国の 50 以上の地域で開催され、さまざまなキリスト教会・教派の青年が毎年、合計数万人参加しています。クリスマスでなくても参加可能。JELA は 2001 年から、100 人を超える青年たちを日本から派遣してきました。

今年は、7 月 28 日～8 月 9 日の日程で 9 名の青少年を派遣し、ミシガン州アンナーバーでホームステイをした後、ペンシルベニア州インペリアル市のキャンプに参加しました。キャンプのテーマは“EXTRAORDINARY”(普通じゃない)。

以下に参加者全員のレポートをご紹介します(一部、JELA が編集)。

計り知れない神様の大きさ

廣瀬 知登(JELC 大江教会・17 歳)



今回のキャンプで一番感じたのは「神様の大きさ」です。僕は 2016 年 4 月の熊本地震で被災しました。それからの生活では常に「何で神様はこんなひどいことを起こすのだらう」と思っていました。地震から数か月たっても一向に答えは出ませんでした。そんな疑問を少しでも解決できればと思って臨んだワークキャンプでした。

奉仕やデボーションを重ねていく中で、少しだけ分かったことがあります。それは、神様は人間の力では計り知れない素晴らしい存在であり、計り知れない大きな愛を

もって私たち一人ひとりを正しい方向へ導いてくださる方だ、ということです。

特に夜のデボーションでは、神様と一対一で向き合い、問いかけ、話し合う機会があり、そこで神様の大きさに気づかされました。少し神さまの知識をもっているだけで、神様のすべてを知っているかのように思っていた僕には、感慨深いものでした。今までの自分の成功や、うまくいったことは、すべて神様の力によるものだと思います。

キャンプを通して見えた神様は、本当に大きな存在でした。こんな大きな神様がついていてくださる自分は、これからの人生どんなことが起きても、そこに希望を見いだしていけると思いました。

五感で神様を感じて

井上 笑(北海道・16 歳)



五感で神様を学ぶプログラムが心に刺さりました。「優しさ」「心が折れたとき」「愛」「自然」などのテーマに分かれた六つのステーションに行き、それらを体感するというものです。

「優しさ」のステーションでは、綿を触りました。とても柔らかくて、いい香りがして、持っているときに逆に体重が減ったかと感じるほど、軽くて温かくて心地よかったです。

「心が折れたとき」のステーションでは、両端が尖がっている爪楊枝を二つに折って、十字架の形に置きました。尖がっているほうも、折れてギザギザになったところも、両方とも心に刺さるようで、満たされずスカスカな気持ちになりました。

「愛」のステーションでは、保湿乳液を手脚に塗りました。肌にスツツしみ込んで、いい香りがし、神様に包み込まれている感

覚がしました。

「十字架」のステーションでは、イエス様が茨の冠をかぶり、釘で十字架につけられたように、自分の爪を痛いほど頭や手に押し付けました。ここは、他のステーションより空気が重くて、イエス様が十字架につけられた重みを感じました。

画用紙に指紋をスタンプするステーションでは、さまざまな色、大きさ、形の指紋がありました。さまざまな人種や個性のワークキャンパーがいて、その一人ひとりを神様は受け入れて、愛してくれていることを感じました。

祈りの力

宇佐美 舞弥(神奈川県・17 歳)



普通だったらペンキ塗りをしたり、デッキや階段を作ったりするのですが、私たちの家はそれどころではなく、ずっとゴミの山の整理整頓でした。またその家の居住者もすぐく変わっている人で、「整理しないでくれ」とか「捨てるな」とか言われて大変でした。ゴミを捨てる時に、レジデントについて来られてしまって、クルー全員が不安でお祈りをしました。すると、そのお祈りを聞いたレジデントはあっさりと帰って行きました。ここでお祈りの大切さを感じることが出来ました。クルー全員で協力して片付けたのは、変わった経験、まさに“Extraordinary”な奉仕でした。

心を静めて神様のことを考えた時間

藤澤 智樹(JELC 神水教会・18 歳)



昼と夜には毎日デボーションの時間がありました。そこでは讃美歌を歌い、祈りを捧げました。また、日本人グループやクルーメンバーとイエス様のことについて

意見を交換しました。自分の心を静めて考えることができる時間でした。イエス様の存在の大きさを知りました。

より多くの人にこのキャンプに参加してほしいと思っています。キャンプによって新しい発見や感動、出会いが待っています。そして、課題も見つかります。それらすべてが絶対に自分の将来につながります。だから「普通じゃない」経験を多くの人にしてもらいたいです。

勇気を出して得た喜び

黒河内 貴子(JELC 飯田教会・16 歳)



ワークキャンプでは、クルーとのデボーションやワークサイトでの活動など、日本人が自分しかいないときもあり、周りから英語しか聞こえない、という不安に押し潰されそうになることもありました。

ワークサイトでも、はじめは何も手伝うことができず、ただ見ていることしかできませんでした。これが本当に悔しかったです。勇気を出してはじめて言えた言葉が“What should I do?”(何をしたらいいですか?)という英語でした。伝わっているのか分からずドキドキしましたが、相手は笑顔で答えて、私の仕事を探してくれました。その時の喜びは今でも忘れません。本当に嬉しかったです! ゴッド・サイティングの瞬間だと思いました。

成長につながった奉仕と学び

百武 歩人(JELC 田園調布教会・16 歳)



ワークキャンプへの参加は二回目になります。再び参加させていただいて、奉仕することで得られることは本当に大きく、ワークキャンプ以外では体験することができないだろうと改めて実感しました。「仲間

と協力し、神様の下で困っている人々を助ける」ということは他ではなかなかできません。朝と夜に行われるプログラムもとても感動的で、神様について仲間と学び、考えを共有することで、個人個人の人間的成長にもつながっていると感じました。

「普通じゃない」出会い

小泉 愛里花(JELC シオン教会柳井チャペル・17 歳)



“EXTRAORDINARY”(普通じゃない)がテーマのワークキャンプでは、たくさんの「普通じゃない」出来事がありました。私の中での「普通じゃない」出来事は、クルーの人たちと出会えたことです。とても離れた日本からアメリカに行って、このクルーに出会えたことは普通ではない、まさに“EXTRAORDINARY”なことだったと思います。

私のクルーはとても元気がよく、優しく友達思いの人たちばかりで、その人柄を私も見習おうと強く思いました。クルーとして一緒にいる最後の時、一人ひとりの良いところを言い合う機会がありました。ありきたりではなく思いがこもった言葉を、私のために分かりやすくゆっくり言ってもらい、思わず涙ができました。

コミュニケーションの大切さ

内田 奈七(JELC 田園調布教会・16 歳)



今回は二回目の参加で、日本人メンバーの中での年齢も上の方で、去年とは違う立場でしたが、そのおかげで、みんなで一つのことを決めることの大変さや、何かを成功させたときの嬉しさなど、いろいろなことを学ぶことができました。

このキャンプは、9 人の日本人以外全

員アメリカ人で、最初はみんな緊張したり英語が話せなかったりで、疎外感を感じたりしたと思います。でも大切なのは、どんな方法でもいいから自分からコミュニケーションをとろうとすること、勇気を出すことだ、とアメリカで過ごしているうちに思いました。

奉仕の達成感

里中りのん(神奈川県・14 歳)



知らない人、ましてや海外の方のお家を修理した後の達成感なんて、最初の頃は想像もつきませんでした。私は美術部に所属していて、よく切り絵をしています。切り絵の作品が完成した時の達成感とは違う達成感が味わえて、楽しかったです。「やりきった!」という大きな達成感が味わえました。

※来年のキャンプ募集は P8 をご覧ください。



頻繁に登場するカタカナ用語の意味

- デボーション(聖書の言葉や霊的体験の分かち合い・祈り合い)
- レジデント(修繕対象となる住宅の居住者)
- クルー(一緒に奉仕を行うグループ仲間)
- ワークサイト(家屋修繕を行う現場)
- ゴッド・サイティング(神様の存在や働きを実感した体験)

桜町聖ヨハネホーム 30周年祝会に招かれました

リラ・プレカリア(祈りのたて琴)研修講座の修了生が複数名奉仕をしている桜町聖ヨハネホーム（社会福祉法人聖ヨハネ会。東京・小金井市）が創立 30 周年を迎え、記念の祝賀会が 9 月 22 日に開かれました。奉仕にかかわってきたリラ・プレカリア研修講座の修了生 4 名(崎山たまもさん、大石千絵さん、村岡晶子さん、中川愛弓さん)もお招きいただき、リラ・プレカリアの説明と演奏の機会を与えていただきました。

この春から定期的に同ホームで奉仕し、祝賀会に出席した中川愛弓さんが原稿をお寄せくださったので、以下にご紹介します。

リラの音楽には何かがある

リラ・プレカリア研修講座第 5 期修了生
中川 愛弓

私たちは祝賀会の席でハープを弾く前にお祝いの言葉を述べ、リラ・プレカリアの紹介をしました。その後、「Ubi caritas」、「Kyrie」、「Tryggare kan」の 3 曲を弾き、ハミングと歌を入れました。宴会の場でしたが、皆さんは箸を置き、ビールや飲みものを口にする方も徐々に減ってゆき、まぶたを閉じたり、天井を見つめ何かを思うような、静かな場に変わっていったのが分かりました。

客席にいた崎山たまもさん（リラ・プレカリア研修講座第 3 期修了生）は、私たちが席に戻ると「本当にリラの音楽には何かがあるんだよね、空気が変わっていたよ……」と言いました。私たちの演奏が始まると、皆さんの肩がスッと下がって場の空気が緩んだのを感じたそうです。演奏した私たちは、一人の患者さんのベッド脇で行う、いつもの奉仕の場のようにも感じました。

演奏後、次のようなコメントを皆さんからいただきました。



☆聖ヨハネ会前修道院長

あなたがたのされていることは、大切な意味のあることだと私たちは思っています。これからお願いしますね。

☆聖ヨハネ会園長

皆さんのされていることが、とてもよく分かり、よかったです。職員にとっても大変によかったです。

☆聖ヨハネ会副園長

いつも、バタバタの中で、いらしていただいている気配を感じながら動いていますけど、今度いつか、職員に聴かせてあげたいと思いました。

☆施設職員の方

いつもお会いしていても、ちゃんと聴いたことがなかった。心が落ち着きます。力がもらえるような音楽なんですね、聴けてよかった。

☆病院ボランティアの方

涙が出ました。私もこのような音楽に看送られたい。

☆朗読ボランティアの方

クリスマスなどのイベントの時に弾いてほしい。

普段、私たちが奉仕する時、患者さんや利用者さんは眠っておられることが多いので、今日のような反応を聞かせていただいて、リラ・プレカリアの音楽が訴える力に驚きを感じました。

皆さんそれぞれ、毎日の中でいろんなことがあって、辛かったり、悲しい出来事があったりして、そこに沁み入るのがリラ・プレカリアの音楽なのだろう、その痛みに寄り添える音楽なのだろうと、祈りの音楽の力を目の当たりにしました。



左から村岡さん、大石さん、筆者



この 7 月から病院で奉仕活動を開始した中島望さんから活動報告を寄せていただきましたのでご紹介します。

祈りが湧き出てくる体験

リラ・プレカリア研修講座第 5 期修了生
中島 望

○もがき苦しむ患者さんに接して

7 月末、ホスピスでは四人の患者さんに奉仕ができました。その日の最後に神様が私に与えてくださった方は、私が病室に入ると、もがき苦しむような呼吸をしていて、意識が朦朧としてお話しできない状態で、何もしてあげられないその状況を、ご家族もただただ見守っていました。

患者さんのもがき苦しむような呼吸から、私は苦しみと痛みを強烈に感じて、リラ・プレカリア受講生の時の実習も含め初めて、叫んで神様に懇願するような「本物の祈り」が自分の中から湧き出てくるのを体験しました。そして自然に曲が降りてきました。

○祈りの音楽で患者さんの呼吸が穏やかに

最初の数本の弦を弾いただけで、患者さんがハープの音に反応しているのがわかりました。弾き続けていると、あまりに強い苦しみからか全身に力が入っていた患者さんから徐々に力が抜けていき、苦しいながらも呼吸が規則的に、そして穏やかになっていったのを、私だけでなく病室にいたご家族三人も目の当たりにしました。

30 分間の奉仕を終えると患者さんの呼吸は規則的で安定し、苦しさを感ぜせない穏やかなものに変化していました。ここまで劇的な変化を見たのは初めてでした。奉仕を終えて静かにハープを置くと、息子さんのお嫁さんが「呼吸……最初と変わりましたね……」とおっしゃいました。息子さんの一人も「ホントだな」と言い、もう一人の息子さんは、「俺、寝ちゃったよ」と言われました。

「A さん、聴いてくださって本当にありがとうございます」と声をかけると患者さんは瞬きをされて、私がある場にいることをはっきり認識されていました。私はお辞儀をして部屋を出ました。

○心をこめてすることの大切さ

廊下でカルテにその日の奉仕中の患者さんの変化の記録を書き始めて数分後です。看護師さんが私のそばに近寄り、「今、奉仕していただいた患者さん、亡くなられました」と言われました。そんなに臨終が近かったと聞かされていなかったのに驚いた半面、だから、本物の「祈りの音楽」を自分も体験したのかもしれない、と私は感じました。

その 5 分後に、ご家族が見えて、「今、亡くなりました。最後に素晴らしい音楽を本当にありがとう」と声をかけてくださいました。この時に初めて、マザーテレサの次の言葉の意味が理解できました。

“大切なことは、
どれだけたくさんのことや
偉大なことをしたかではなく、
どれだけ心をこめてしたかです。”



写真はリラ・プレカリアのイメージです。

新しい短期宣教師(J3)の皆さん、ようこそ日本へ！

アメリカ福音ルーテル教会(ELCA)から派遣された二人の短期宣教師が 9 月 28 日に来日しました。JELA は、12 月中旬まで日本語レッスンの提供など、生活支援をいたします。以下、それぞれの自己紹介です。

○ランドル・タレント Randall Tallent さん(ノースカロライナ州ローリー出身)

フロリダ国際大学大学院でアジア研究(日本の社会と教育)修士課程を修了しました。趣味は読書、自然観察、アメフト観戦、そしてコンピューターゲームです。大学院に入学するまでは、銀行員、レストランのマネージャー、英会話教師、そして福岡の日本語学校でインターンをし

ていました。日本と米国のルーテル教会員どうしの交わりが深まるように手助けし、互いの兄弟姉妹の輪が国際的に広がることを願っています。(写真手前)

○ゲイル・ネルソン Gayle Nelson さん(フロリダ州ジャクソンヴィル出身)

米軍警察官(MP)として 20 年間勤務しました。退役後は 1 年間バーテンダーをしたのちに、フロリダでまた警察官として 6 年間働き、米国のルーテル神学校に入りました。神学校では、宗教の修士号を取り、在学期間中に五つ子の母になりました。その後は、教師として再就職をして、小学校で算数と科学を教える

いました。神様の導きに従って、ここ日本で交流する方たちと共に歩むことができるようにお祈りいたします。(写真奥)

二人とも来年 1 月から熊本に移動し、4 月からは 2 年間英語を教えるかたわら教会で奉仕予定です。新しい J3 のお二人をどうぞよろしくお願いいたします。



政治経済的視点を踏まえた 難民保護

第4回 ドイツの実践から(2)

東京大学大学院総合文化研究科 特任研究員
神奈川大学法学研究所 客員研究員

有馬みき

今回は、ドイツの難民保護について政治経済的観点からご紹介しました。今回は、難民がドイツ社会で暮らしていくためにどのような支援が行われているのかについて、簡単にご紹介します。

■難民の社会統合

難民保護には様々な側面があります。国家の視点から見れば、領域内への入国を許すという意味での物理的な側面もあれば、在留資格を与えて滞在を許可するという法的な側面もあります。しかしそれで終わりではありません。難民も人です。衣食住と安全が必要なことは言うまでもありませんが、さらには教育や就労の機会を得て、社会の一員として、自由と尊厳をもって暮らすことができるようになってこそ、真の受け入れといえるでしょう。

このような意味で難民を社会に受け入れることを「社会統合」といいます。国際移住機関 (IOM) によると、社会統合とは、外国人と受け入れ社会の双方がお互いの独自性と多様性を尊重しつつ、同じ社会の構成員としての共有文化を築き上げていく過程を指しています。社会統合が円滑に行われることは、難民が安心して幸せに暮らすためにとても大切なことです。また、受け入れ社会にとっては、不要な摩擦を減らし、難民がコミュニティに貢献できるようになるまでの投資ということができます。

■生活支援

社会統合が行われる前提として、まずは最低限の衣食住を確保する生活支援が必要です。ドイツに到着した難民は、警察など最寄りの公的機関に届出をすると、まずは地域の受け入れセンターで暮らし、そこで登録手続きを行うことになります。センターでは衣食住が無料で提供され、医師の訪問もあります。ニュルンベルグで訪れた受け入れセンターは

赤十字が運営しており、費用は州政府が負担しているとのことでした。

プレハブの建物で、居住棟と食堂棟、シャワーや洗濯室などの棟があり、外には子ども用にブランコや滑り台などが設置されていました。布団や枕などは簡素だけれども新品が支給される一方、衣類は寄付されたものでした。通常は3ヶ月以内に登録が済み居住する州が割り当てられると、その州にある定住施設に移動し、そこで難民申請の結果を待つことになります。

■統合コース

社会統合の手助けをするために、統合コースと呼ばれるプログラムが用意されています。プログラムの内容は連邦政府において考案されたものですが、実際の講習は地域レベルで民間の福祉団体などが行っています。

一般的な統合コースは難民と移民共通のもので、600時間のドイツ語研修と60時間のオリエンテーションがあります。オリエンテーションとしては、ドイツの法制度、歴史、文化、権利と義務、価値観などの講習を受けます。価値観とは、信仰の自由、寛容、平等などです。たとえば男女平等は一般のドイツ人にとっては当たり前になっていますが、出身国によってはそのような概念が身近でない人たちもいます。ドイツで周囲と問題を起こさずに暮らしていくためには、ドイツ社会で重要とされる基本的価値について学ぶ必要があるのです。

さらには、教育をあまり受けていない人を対象に識字教育から行う初歩コースや、女性用、親用、若者用の特別コースもあり、それぞれ900時間分の講習となります。たとえば親のためのコースでは、子どもが通う幼稚園や学校について学び、子どもの教師への紹介があります。また、ドイツの教育システムについて学び、自分と子どもがドイツで暮らす中でどのような選択肢が可能か知ること、子どもの将来について意思決定できるようにするものです。女性や若者向けコースもそうですが、似たような境遇の人とクラスメートとして知り合うことで、他者と交流する機会が増え、社会参加が促されるという効果もあるのです。

これらの講習は、本来は難民認定後

に受けることが想定されていましたが、認定される可能性が高い国の出身者は申請結果が出る前から受講できるようになりました。経済協力開発機構 (OECD) の報告書では、滞在を認められる可能性が高い人々に対しては、統合に向けた取り組みを早い段階から行うことが推奨されています。語学の学習などは早く始めた方が習得も進み、その後の教育や就職の可能性に大きな影響を与えるからです。

ほかに、州や自治体が民間団体と協力して地域ベースで統合の促進を進めています。たとえば、難民申請者のための教育センターを兼ねた図書室や、地域住民との接点となるインターナショナル・カフェなどの取り組みがあり、そこではボランティアがドイツ語を教えたり様々なアドバイスを提供したりしています。

■受け入れ社会への働きかけ

社会統合は双方向のプロセスです。語学学習などにおける難民側の努力が求められる一方で、受け入れ社会の側にも包容力が求められます。ドイツの受け入れセンターの職員は、オープンハウスや集会などを通して近隣コミュニティとのコミュニケーションを図り、ときには批判的な意見をもつ住民とも話し合い理解を得る努力を重ねることを、仕事の重要な一部と捉えていました。

他国の取り組みを知ることは、日本にとっても様々なヒントを得るチャンスになります。この連載が、日本での難民受け入れについて考えるきっかけになれば幸いです。



寄付された衣類

JELA は 2016 年度より、子どもたちが放射線の心配なく遊べる屋内スペースを提供する福島市内のプロジェクト「キッズケアパークふくしま」を支援しています。このたび、当プロジェクトの推進委員会委員長である栗原清一郎さんよりご寄稿いただきました。

「キッズケアパークふくしま」 線量気にせず元気に遊ぶ

このプロジェクトは、東日本大震災後に福島の県北の教会が集まってつくった「福島教会復興支援ネットワーク」の話し合いから生まれました。

福島市は人口 29 万の都市で、大事故を起こした原発からは北西に 60 キロ離れています。爆発後放射性物質は風に乗り北西に流れたため、20 万人を超す人口密集地としては最もひどく放射能汚染を受けました。そのため特に幼い子どもを抱える保護者の方たちは、子どもたちの被曝を恐れ放射線量の高い屋外には出さず、限られた屋内で遊ばせるということが続き、成長の遅れが目立ちました。

そこで私たちは、放射能の心配をせずに思いっきり遊び、運動でき、子どもたちがすくすくと成長することを促す遊び場と、保護者の方たちが低線量被曝環境下でも自信と希望を持って子育てする方法について自分で判断できるためのフェアな情報を得ることのできる場を、身近に提供しようと考えました。そして、放射能被害は数十年続くので十分ではありませんが、少なくとも企画から 10 年、すなわち 2023 年 6 月までは支援を続けよう話し合い、この会をたちあげました。

今は福島市の小学生以下約 3 万人の子どもたちのうち、極めて限られた数の子どもたちしか対象にはできませんが、場所を借り、遊具を持ち込み、動物の形をしたバランスボールを使った子どものヨガやベビーマッサージの指導なども行う「あそびば」を月に一回のペースで開催しています。子どもの成長に関する専門家で、当プロジェクトアドバイザーの福島大学教授の菅家礼子先生は

じめ高校生、大学生、社会人、教会員からなる大勢のボランティアたちに支えられて運営する無料の遊び場です。

運営資金は国内外に呼びかけ、ドイツやアメリカの教会、日本の教会や個人の方たちからの献金で賄っています。JELA 様からは視察に来ていただき、会場費を支援していただき大変助かっています。

おかげさまで皆様のご支援とお祈りに支えられて、私たちの「こどもあそびば (キッズケアパークふくしま)」は 2014 年 6 月からスタートし、今年の 9 月には 24 回目を迎えました。お母さんたちや子どもたちからは本当に喜ばれており、はじめは 20 名くらいの参加者だったのが今は 200 名を超えることもあり、平均はスタッフも入れて 129 名になっています。

お母さんたちからは「子どもたちがこんなに楽しく思いっきり遊んでいるのを見るのは本当にうれしい。特にお姉さんたちやお兄さんたちがやさしく接してくれるので、子どもも大喜びだし私たちも安心して楽しめる」といったコメントをいただき、本当に楽しい場になっています。

政府は経済優先を念頭に「放射能はもう問題ない」の大合唱ですが、アメリカの科学アカデミーのレポートや、ドイツやウクライナからのレポートによると、幼い子ほど被曝を避け、線量の少ないクールスポットで遊ばせる必要があることがわかります。このことをお母さんたちに上手に伝えつつ支援を続けていきますので、今後とも皆様からのお祈りとご支援をよろしくお願いいたします。

(栗原清一郎)



第8回 川柳ひろば 入選句発表

下の三句が選ばれました(柏木哲夫・選)。おめでとうございます! 近日中に景品をお送りします。

＜最優秀賞＞

・幹事役計報黙祷同期会(泉 亮)

＜優秀賞＞

・私なぞいらないのねと銅メダル(五輪書)

・よい結果だけは上司に Cc を
(ほうれんそう)

以下のような佳作もありました。入選までもう一歩です。たくさんの句をまとめて送るのが入選のコツです。これからも投句に励んでください。(以下はすべて、川柳ひろば管理人・選。柳名略、景品なし)

＜時事的な佳作＞

・文学賞時代は変わるボク知らん

・八月や平和のハトは折鶴で

・二刀流テニスと卓球ご法度か

・職業は「歌手」ソロでは歌えぬが

・「つまらない男」の支援頼りにし

・難民を除きみんなに「おもてなし」

・一日署長仕事はメダル見せること

・綱取りと騒がれ続け年を取り

・新郎に娘の取説(とりせつ)渡す義母^{はは}

＜なんとなく趣とユーモアのある佳作＞

・キャラメルを口に含みて終戦日

・ミーンミンと蝉よお前も暑いのか

・悲しくて泣けば明るい虹を見る

・この点滴今宵鰻重の味になれ

・猫番組わが飼い猫と並び見る

2017米国ワークキャンプ 参加者募集!

◆派遣期間: 2017年7月26日(水)～
8月8日(火)

◆内容: ノースカロライナ州で一週間の
ワークキャンプに参加し、近隣の州でホ
ームステイもします。

2017年8月1日現在で14歳～20歳の方が
応募できます。

◆参加費用: 20万円

※お友達を誘って参加いただいた方に
は、それぞれの参加費から5千円割引
きます!

◆問合せ・申込用紙請求先:

〒150-0013 渋谷区恵比寿1-20-26

日本福音ルーテル社団(JELA)

アメリカ・ワークキャンプ係り

電話:03-3447-1521

ファクス:03-3447-1523

E-mail: jela@jela.or.jp

◆申込締切: 2017年4月末日

※募集要項の詳細は、JELAホームページ
(www.jela.or.jp)でもご覧になれます。皆様
の参加をお待ちしています。

支援者一覧

(2016年6月1日～9月30日)

穂田信子/浅原よし子/浅見正一/宗アツム/セター/安藤淑
子/市吉伸行/井上秀樹/井上新/泉亮/洋子/江澤妙子/
大石千絵/大石敏和/大河原留美/太田立男/大嶺裕司・
可代・十六夜/柿沢純江/加藤裕子/金子佐人/関西学院
大学人間福祉学部/ヤル・サカ/京谷信代/工藤達晃/久保
木知子/グレイ恵子/小泉小枝/神戸エミ/古庄理世/小
松由美/小丸吉展/佐野友美/鈴木晴美/鈴木辰典/渋谷
洋子/杉浦りえ/高尾亮/高橋ふく子/高橋悠美子/田中淑
子/JELC玉名教会/田山かほる/ゲ・ゼッド・カル/同志社
大学Department of Social Welfare/轟木信治/富田はるこ/
鳥飼勝隆・豊子/中山純郎/仲吉智子/西萩なみ子/西垣
親子/日本中村教団/鈴蘭台教会/日本福祉教育専門学校
/野上きよみ/野田千恵子/芳賀美江/早瀬康平/平林洋
子/JELC藤が丘教会/古川博子/古川文江/保坂和子/増
田悦次/松隈芳久/松村澄子/松本邦子/南節子/森田七
三郎/森部信/山口初子/山本了/淀川中村教団/LPGM
(Lutheran Partners in Global Ministry)/若原奇美子/渡邊聡
/他匿名複数

以上、順不同・敬称略。ご支援ありがとうございます。

匿名をご希望の場合は、ご送金の際にお知らせくださ
い。

JELAの活動にご支援を!
各種献金のご送金は下記をご利用ください。

ホームページから寄付ができます!



編集余話

定年まで残すところ数年。退職したら家でブラ
ラしないでね、と妻にクギをさされた。何かス
ポーツでもと思っていた矢先、社交ダンスのチ
ラシが目に入った。初心者大歓迎はいいとして、
個人レッスンが半額らしい。意味がよくわからな
いまま読み進むと、「男性 60 歳以上・女性 80
歳以下を募集」とある。……差別では? 見るだ
けなら楽しい広告だが、幾分あやしいので入会
は見送った。話は変わり、ジェラハウスの難民の
方たちは、スポーツは何が好きだろう。地域の
フットサル大会への出場を楽しみにしている人
もいるが、観戦するなら、やはりサッカーか。しか
し、せっかく日本にいるのだから、国技館で相撲
を観るのも一興では。同行してくれるボランテ
アを募って、難民と一緒に観戦ツアーをそのう
ち試みたい気がする。(M)



Japan Evangelical Lutheran Association

一般社団法人日本福音ルーテル社団

〒150-0013 東京都渋谷区恵比寿1-20-26

Tel.03-3447-1521 Fax.03-3447-1523

Email: jela@jela.or.jp

HP:http://www.jela.or.jp

郵便振替口座番号:00140-0-669206

加入者名:一般社団法人日本福音ルーテル社団

教文館 エインカレム

ルター宗教改革500年記念 オリジナルグッズフェア 開催中!

ルターが聖書を翻訳したヴァルトブルク城に
ある、アイゼナハ・ヴァルトブルク売店から「ル
ター宗教改革500年記念オリジナルグッズ」
を直輸入!

カード、鉛筆、ボールペン、キャンドル、バッグ、
マグネット、定規、ステッカー、キーホルダー、メ
ガネケース、メガネ拭き、ピンバッチ、しおり、マ
ウスパット、胸像、そして発売と同時に大人気
のプレイモービル「マルティン・ルター」フィギュ
アなどをご用意しております。

来年にかけて、世界中のルター関連グッズが
続々登場予定! 当店でも、順次厳選して紹
介いたします。

*通販でもお買い求めいただけます。詳しく
は下記にお問い合わせください。

2016年12月



〒104-0061 東京都中央区銀座4-5-1

株式会社教文館 4階エインカレム

Tel. 03-5250-5052 Fax.03-5250-5053



ショルダーバッグ

ルターの肖像画や薔薇
の紋章・関連する絵画
などをあしらったショル
ダーバッグです。
ヒモ調整可能
サイズ:33×29×13 (cm)
本体4,200円+税



キーホルダー

ルターの薔薇の紋章をモチーフとした
キーホルダーです。

左側:

材質:アルミ製

サイズ:全長6.7 (cm)

紋章部分:4.5×4.5 (cm)

本体670円+税

右側:

材質:ステンレス

サイズ:全長10 (cm)

紋章部分:4.5×4.5 (cm)

本体880円+税



ボールペン

ルターの薔薇の紋章を
モチーフとしたボールペンです。

材質:プラスチック

全長14.5 (cm) 替え芯無し

463円+税

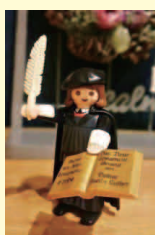


ブックマーカー

材質:ステンレス

10×2.5 (cm)

1,340円+税



マルティン・ルターの プレイモービルフィギュア

ゲオプラ・ブランドシュテーター
社製 (ドイツ)

材質:プラスチック

箱入り

サイズ:7.5×3 (cm)

本体2,500円+税



キャンドル



大サイズ:16×5.5 (cm) 本体2,700円+税

小サイズ:5.5×5 (cm) 本体799円+税